

■ 定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

フリガナ 名称										ナラトンネル 奈良トンネル		路線名		町道 奈良内深田線		管理者名		鬼北町		トンネルID		緊急輸送道路		有															
所在地										自 鬼北町奈良 至 鬼北町内深田		定期点検業者		株式会社富士建設コンサルタント		定期点検年月日		2019年10月23日		トンネル延長		L= 272 m		代替路の有無		有													
起 点										緯度 33° 15' 10.00"		変状・異常 箇所数合計		トンネル 本土工		材質劣化		II		35箇所		III		6箇所		IV		0箇所		トンネル毎 の健全性		III		附属物の 取付状態		○ (応急措置後)		0箇所	
終 点										緯度 33° 15' 17.00"						漏水		II		1箇所		III		0箇所		IV		0箇所								×		0箇所	
経度 132° 39' 33.00"										経度 132° 39' 39.00"		外力		II		0スパン		III		0スパン		IV		0スパン															
トンネル変状・異常箇所写真位置図																																							
										<p>写真番号の記載例</p> <p>本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】</p> <p>附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】</p>										<p>注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。</p> <p>注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。</p> <p>注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。</p> <p>注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。</p> <p>注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。</p>																			

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。なお、初回点検（H26以降）以降に、措置が行われた結果、Ⅰと判定された箇所についても記載すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

												トンネルID					
フリガナ 名称		ナラトンネル 奈良トンネル		路線名	町道 奈良内深田線			管理者名	鬼北町			緊急輸送道路	有				
												代替路の有無	有				
所在地		自	鬼北町奈良	定期点検業者	株式会社富士建設コンサルタント			定期点検年月日	2019年10月23日			トンネル延長	L= 272 m				
		至	鬼北町内深田	定期点検者名	坂本 吉継						トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）					
起点	緯度	33° 15' 10.00"		変状・異常 箇所数合計	トンネル 本土工	材質劣化	II	35箇所	III	6箇所	IV	0箇所	トンネル毎 の健全性	III	附属物の 取付状態	○ (応急措置後)	0箇所
	経度	132° 39' 33.00"				漏水	II	1箇所	III	0箇所	IV	0箇所				×	0箇所
終点	緯度	33° 15' 17.00"				外力	II	0スパン	III	0スパン	IV	0スパン					
	経度	132° 39' 39.00"															
<p>写真番号の記載例</p> <p>本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】</p> <p>附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】</p>																	
<p>注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。</p> <p>注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。</p> <p>注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。</p> <p>注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。</p> <p>注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。</p>																	

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。なお、初回点検（H26以降）以降に、措置が行われた結果、Ⅰと判定された箇所についても記載すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

フリガナ 名称										ナラトンネル 奈良トンネル		路線名		町道 奈良内深田線		管理者名		鬼北町		トンネルID		緊急輸送道路		有	
所在地										自 鬼北町奈良 至 鬼北町内深田		定期点検業者 株式会社富士建設コンサルタント		定期点検年月日		2019年10月23日		トンネル延長		L= 272 m		トンネルの分類		陸上トンネル（掘進工法）	
起点	緯度	33° 15' 10.00"		変状・異常 箇所数合計	トンネル 本土工	材質劣化	Ⅱ	35箇所	Ⅲ	6箇所	Ⅳ	0箇所	トンネル毎 の健全性	Ⅲ	附属物の 取付状態	○ (応急措置後)	0箇所								
	経度	132° 39' 33.00"				漏水	Ⅱ	1箇所	Ⅲ	0箇所	Ⅳ	0箇所				×	0箇所								
終点	緯度	33° 15' 17.00"		外力	Ⅱ	0スパン	Ⅲ	0スパン	Ⅳ	0スパン															
	経度	132° 39' 39.00"																							
<p>トンネル変状・異常箇所写真位置図</p> <p>写真番号の記載例 本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】 附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】</p> <p>注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。 注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。 注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。</p>																									

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。なお、初回点検（H26以降）以降に、措置が行われた結果、Ⅰと判定された箇所についても記載すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

フリガナ 名称												ナラトンネル 奈良トンネル		路線名		町道 奈良内深田線		管理者名		鬼北町		トンネルID																			
所在地												自 鬼北町奈良		定期点検業者		株式会社富士建設コンサルタント		定期点検年月日		2019年10月23日		緊急輸送道路		有																	
												至 鬼北町内深田		定期点検者名		坂本 吉継						代替路の有無		有																	
起 点												緯度 33° 15' 10.00"		変状・異常 箇所数合計		トンネル 本土工		材質劣化		II		35箇所		III		6箇所		IV		0箇所		トンネル毎 の健全性		III		附属物の 取付状態		○ (応急措置後)		0箇所	
終 点												緯度 33° 15' 17.00"						漏水		II		1箇所		III		0箇所		IV		0箇所								×		0箇所	
												緯度 132° 39' 33.00"		外力		II		0スパン		III		0スパン		IV		0スパン															
トンネル変状・異常箇所写真位置図																																									
												<p>写真番号の記載例</p> <p>本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】</p> <p>附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】</p>																													

- 注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
- 注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
- 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
- 注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
- 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。
- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。なお、初回点検（H26以降）以降に、措置が行われた結果、Ⅰと判定された箇所についても記載すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■ 定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

フリガナ 名称										ナラトンネル 奈良トンネル		路線名		町道 奈良内深田線		管理者名		鬼北町		トンネルID		緊急輸送道路		有	
所在地										自 鬼北町奈良		定期点検業者		株式会社富士建設コンサルタント		定期点検年月日		2019年10月23日		トンネル延長		L= 272 m			
										至 鬼北町内深田		定期点検者名		坂本 吉継						トンネルの分類		陸上トンネル（掘進工法）			
起点	緯度	33° 15' 10.00"		変状・異常 箇所数合計	トンネル 本土工	材質劣化	II	35箇所	III	6箇所	IV	0箇所	トンネル毎 の健全性	III	附属物の 取付状態	○ (応急措置後)	0箇所								
	経度	132° 39' 33.00"				漏水	II	1箇所	III	0箇所	IV	0箇所				×	0箇所								
終点	緯度	33° 15' 17.00"				外力	II	0スパン	III	0スパン	IV	0スパン													
										経度		132° 39' 39.00"													
トンネル変状・異常箇所写真位置図																									
										<p>写真番号の記載例</p> <p>本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】</p> <p>附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】</p>										<p>注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。</p> <p>注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。</p> <p>注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。</p> <p>注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。</p> <p>注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。</p>					

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。なお、初回点検（H26以降）以降に、措置が行われた結果、Ⅰと判定された箇所についても記載すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。